



Topics ~循環器診療に役立つ、最新の話~

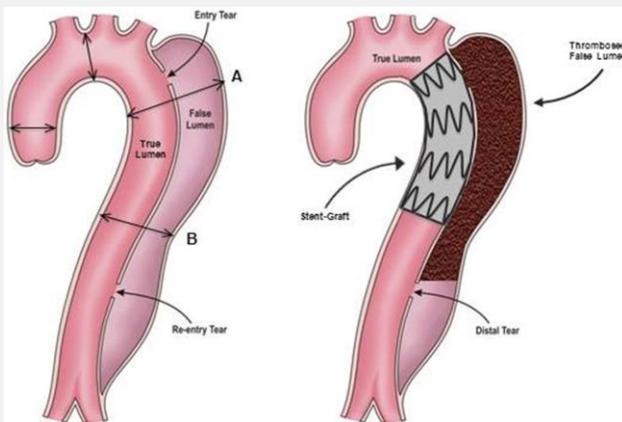
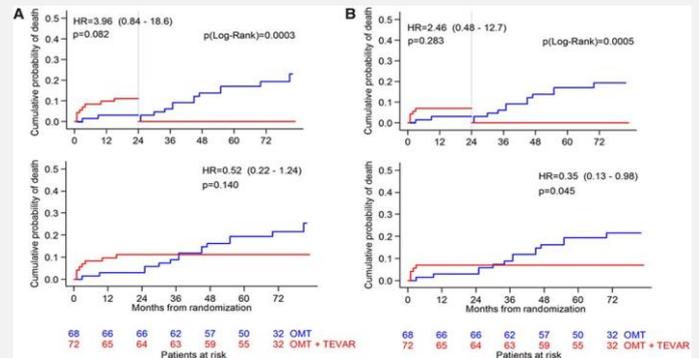
発症早期B型大動脈解離に対して
ステントグラフト治療が有用 (INSTEAD試験)

Nienaber CA, et al. INSTEAD-XL trial. Endovascular repair of type B aortic dissection: long-term results of the randomized investigation of stent grafts in aortic dissection trial. Circ Cardiovasc Interv 2013; 6:407-416

発症1年以内のB型急性大動脈解離(140例)をTEVAR治療群(72例)と保存加療群(optimal medical treatment (OMT) 68例)に無作為に割り付けた試験です。

5年間のフォローで全死亡率はTEVAR群で低い傾向があり、大動脈関連死亡率ではTEVAR群で有意性が示されました。

(図A TEVAR vs OMT 11.1±3.7% vs 19.3±4.8%; $P=0.13$;
図B; 6.9±3.0% vs 19.3±4.8%; $P=0.045$)



日本循環器学会ガイドライン(2020)でも将来の偽腔拡大を予防することを目的としたTEVAR (pre-emptive TEVAR) が支持されるようになり、ステントグラフト治療は大動脈解離に対しても普及してきています。

大動脈関連疾患で診断、治療方針に迷われる症例がございましたら、是非ご相談、ご紹介いただければ幸いです。

文責 竹内 太郎

スタッフ紹介 Vol.3



竹内 太郎

医師

心臓血管外科 科長

2009年 金沢大卒

2019年9月に赴任して4年目になります。大動脈疾患に対するステントグラフト治療も含めて、地域の医療に貢献できるように努力していきます。よろしくお願ひします。

